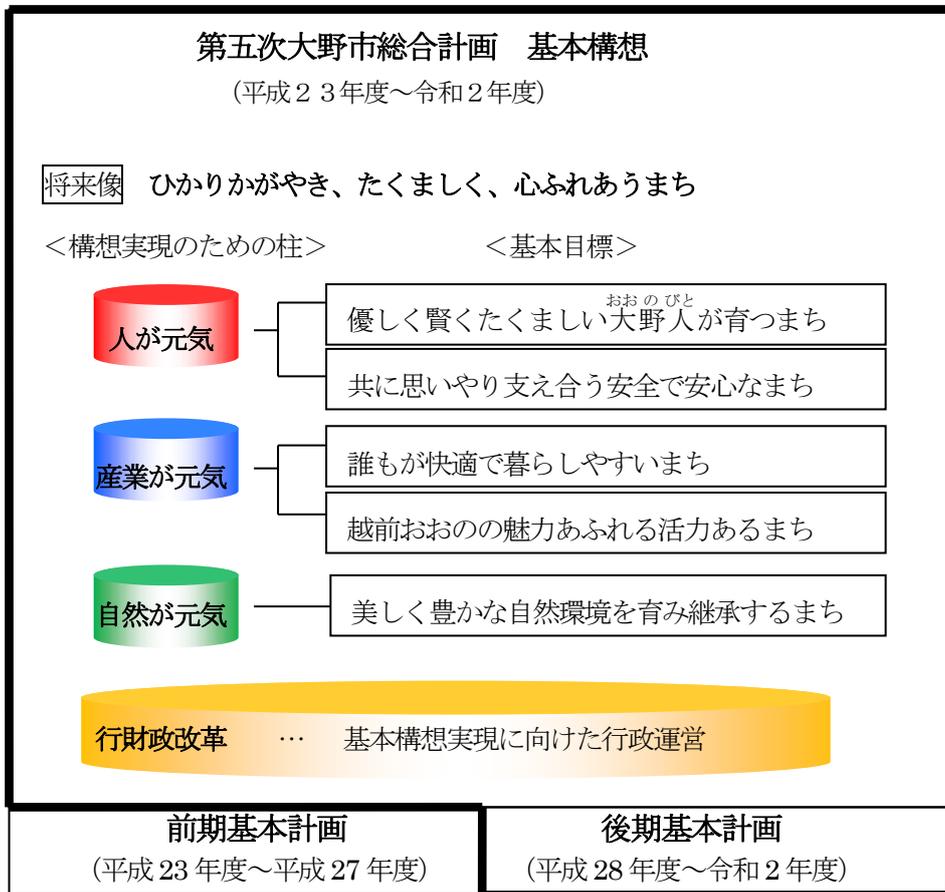


第五次大野市総合計画における取組報告

1 総合計画とは

- 大野市の将来を展望し、まちづくりの目標と方向を明らかにした最上位の計画であり、長期的・総合的な市政運営の指針となる計画
- 「基本構想」と「基本計画」で構成し、「基本構想」では大野市の将来像やまちづくりの目標を設定、「基本計画」では基本構想に沿って必要な施策や事業を体系的に明示
- 第五次大野市総合計画における「基本構想」の構想期間は平成23年度から令和2年度までの10年間とし、「基本計画」の計画期間は、前期、後期に分け、各5年間（前期：平成23年度～平成27年度・後期：平成28年度～令和2年度）

(体系イメージ)



※太線で囲んだ部分の取り組みを報告するもの

2 第五次大野市総合計画 後期基本計画の実績

(1) 将来の見通しの推移状況と成果指標の達成状況

○人口の推移状況 《令和2年目標人口 32,000人》

平成22年 35,291人 (国勢調査)

令和2年 31,324人 (令和2年国勢調査速報値)

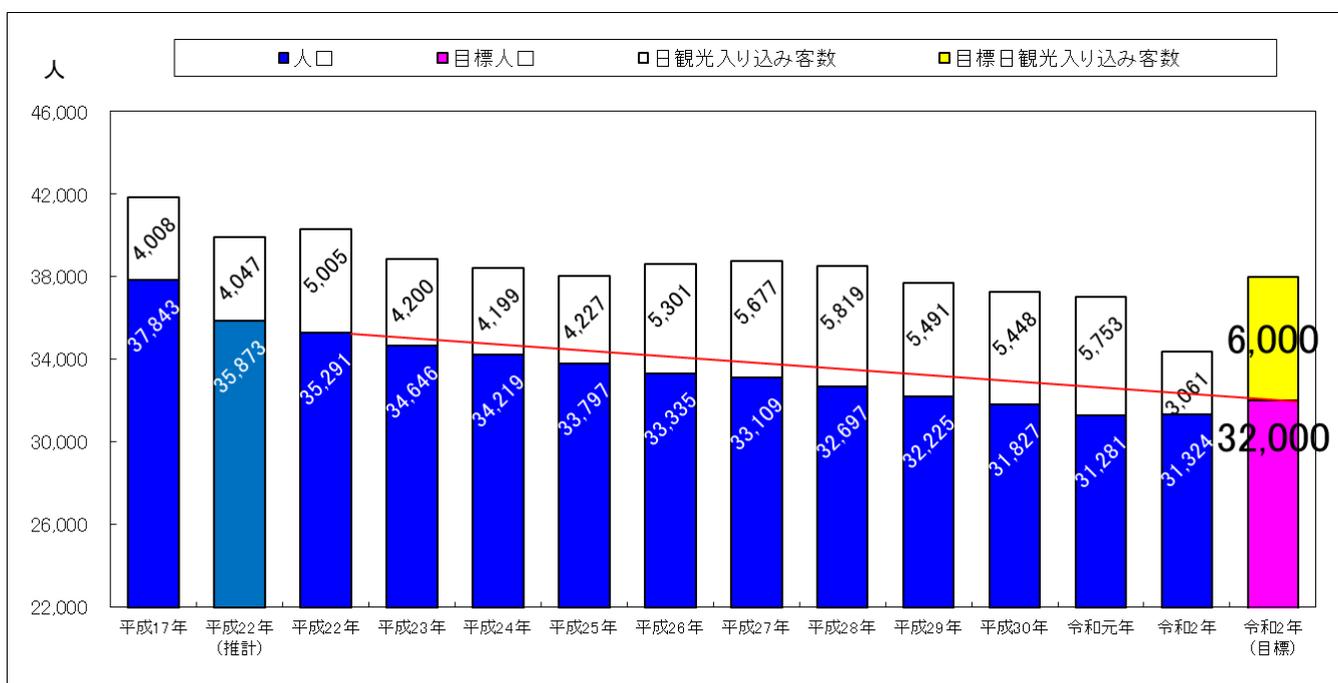
⇒ 年間400人以上のペースで人口減少が進んでいる。

○ふれあい交流人口の推移状況 《令和2年目標ふれあい交流人口 38,000人》

平成22年 40,296人

令和2年 34,385人 (推計人口+一日当たり観光入り込み客数)

⇒ 令和2年は新型コロナウイルスの影響により、観光入り込み客数が大幅に減少



図：人口とふれあい交流人口の推移 (資料:国勢調査、福井県人口推計、市観光交流課)

(2) 基本目標ごとの取り組みと実績（平成28年度～令和2年度）

人が元気

①「基本目標 優しく賢くたくましい大野人が育つまち」

<主な取り組み>

【ふるさとに根ざした特色ある学校づくり】

- ・結の故郷ふるさと学習交流会や結の故郷みこしダンスパフォーマンス、結の故郷小学生ふるさと芸能発表会の開催などにより、児童生徒の「ふるさとを知り、ふるさとを創る」活動を通して「大野人」の育成に取り組みました。

【国際化・情報化に対応できる人づくり】

- ・国のGIGAスクール構想に合わせ、小中学校の校内の高速通信ネットワーク（LAN設備）を整備するとともに、一人1台のタブレット端末を整備し、学校教育におけるICT環境の充実に取り組みました。

【文化的遺産の保存と活用】

- ・地区や集落に古くから伝わる伝統芸能、風習などを「おおの遺産」として認証し、認証された伝統文化の保存団体等の活動に補助金を交付するなど伝統文化の保存と継承活動の継続を促しました。コロナ禍において、市内各地域のおどりの動画をユーチューブで配信し、おどりに携わる団体に発表の機会を提供し、継承活動の継続を促しました。

【文化施設の整備と充実】

- ・「COCONOアートプレイス」を整備し、企画展などの開催により、市民の文化芸術に触れる機会を充実させました。（令和元年12月にウッドデザイン賞運営事務局の「ウッドデザイン賞」を、令和2年10月に（公財）日本デザイン振興会の「グッドデザイン賞」を受賞）

【生涯スポーツの推進】

- ・令和2年度に県内初のオンラインマラソンとなる「越前大野リモートマラソン」を開催し、コロナ禍においても人々がつながってスポーツを楽しむ機会を提供しました。

【福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会の開催】

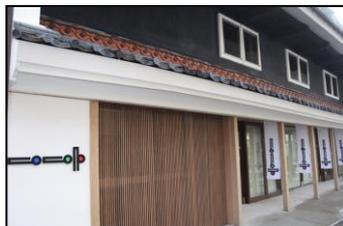
- ・大会の成功に向けて、体育施設の整備や競技力向上、生涯スポーツの普及、各種競技の盛り上げや訪れた選手へのおもてなしなどに取り組み、市民力・地域力の向上につなげました。

【市民力・地域力の向上の仕組みづくり】

- ・地域づくり団体などによる地域資源を生かした取り組みに交付金を交付するなど地域活性化や地域の課題解決につなげました。また、コミュニティ会館を利用して、住民が集い、語らい、交流を深める活動を行う自治会などの団体に補助金を交付し、地域の世代間交流を促しました。



中学生みこしダンスパフォーマンス



COCONOアートプレイス



福井しあわせ元気国体・元気大会

第六次総合計画に向けた主な課題

- ・自ら課題を発見し解決する探求的な学習を推進し、ふるさと大野の未来を創造する力と、自己の生き方について考える力を育てる必要があります。
- ・文化芸術を振興するための拠点が必要です。
- ・市民のスポーツを通じた健康づくりを進めるため、より多くの市民に参加してもらえる事業の実施が必要です。
- ・人口減少や少子化・高齢化により、社会奉仕作業や伝統行事などの地域活動の継続が困難な自治会が増加しているため、地域の活動や仕組みを検討する必要があります。
- ・公民館は、社会教育施設としてだけでなく、地域の課題解決に向けた拠点としての機能が必要です。

<成果指標> (セル色塗りは目標数値を達成)

基本目標	基本施策	成果指標					単位
		指標	H26年度 現状	R元年度 実績(参考)	R2年度 実績	R2年度 目標	
優しく賢くたくましい大野人が育つまち	結の心あふれる人づくり	図書館の来館者数	—	97,555	73,835	87,500	人
		公民館講座・教室受講者数	24,428	25,764	9,462	27,500	人
		国際交流講座開催数	10	14	5	20	回
		ICT機器の活用率	—	小学校 87 中学校 73	小学校 91 中学校 83	100	%
		「将来の目標や夢を持っている」割合	小学校 92 中学校 72	小学校 89 中学校 83	小学校 90 中学校 82	小学校 100 中学校 100	%
	豊かな心を育てる文化力の育成	指定等文化財件数	135	142	142	141	件
		公演などの開催回数	15	6	4	16	回
	活力あふれるスポーツ社会の実現	みんなでスポーツ参加者数	2,149	2,215	896	2,500	人
		スポーツ施設の利用者数	286,971	255,833	184,153	300,000	人
	共に力を合わせるふるさとづくり	協働のモデル事業	2	0	0	4	件
		人権関係の啓発活動	19	28	25	20	回

人が元気

②「基本目標 共に思いやり支え合う安全で安心なまち」

<主な取り組み>

【高齢者の支援体制の充実】

- ・65歳以上対象の体操教室など、高齢者の心身の状態に応じた介護予防事業を実施することで、自立した日常生活を支援し、要介護認定率の抑制に取り組みました。

【子育て支援サービスの充実】

- ・子育て世代包括支援センター事業により、妊娠期から子育て期までの様々なニーズに対し、ワンストップで切れ目のない総合的な子ども・子育て支援を行いました。
- ・若い人たちが、大野に住んで、結婚して、子育てしたくなるよう、産後ママの不安や負担を軽減するた

めの応援、経済的負担を軽減するための各種助成、子育てと仕事を無理なく両立するための保育環境や放課後の居場所づくりなど、様々な支援を揃えて「大野ですくすく子育て応援パッケージ」としてまとめ、情報発信に努めました。

- ・子育て世帯への経済的支援として、子ども医療費の助成対象を20歳までの学生に拡大するとともに、窓口での自己負担金を無料にしました。また、第2子の保育料の無料化、在宅育児家庭への手当金（第2子以降）の支給を実施しました。

【婚活に関する支援】

- ・婚活カステップアップ事業やハッピーブライダル応援事業を実施し、結婚への支援を行いました。

【健康づくりと保健予防の充実】

- ・自身の健康に関心や目標を持ち、健康づくりに取り組む市民が増えるよう、歩くことから始める健康づくり「おおのヘルスウォーキングプログラム」を実施し、参加者に活動量計を身に付けてもらい、ポイント制により健康づくり意欲の継続を図る取り組みを行いました。また、体力測定、食育、健康づくりを一度に体験、学習できる「結の故郷健康・食守フェスタ」や、ラジオ体操を健康づくりに取り入れる市民を増やすため、「ラジオ体操講習会」を開催しました。

【地域防災力の強化】

- ・災害に強いまちづくりを目指し、1000年に一度の降雨に対応し、ダムの緊急放流による浸水を想定して「大野市総合防災マップ（ハザードマップ）」の改訂を行いました。また、周囲に影響のある管理不全な空き家の所有者に対し、適正な管理の指導を行いました。

【救急体制の充実強化】

- ・消防車両の計画的な整備・更新に取り組むとともに、最新の消防緊急通信指令システムを導入し、より正確で迅速な消防・救急体制の充実に取り組みました。



大野ですくすく子育て応援パッケージ



おおのヘルスウォーキングプログラム



消防車両の整備・更新

第六次総合計画に向けた主な課題

- ・高齢者や障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、誰もが相互に理解を深め尊重し、「結の心」で支え合う意識を醸成することが重要です。
- ・安心して妊娠や出産ができる環境を整えるとともに、母親が子育てに不安や孤立感を持たないように、妊娠期から切れ目のない相談支援や情報提供などを継続して行う必要があります。
- ・市民一人一人が、自分自身の健康状態を把握し、日頃から楽しみながら健康づくりに取り組むことができる環境づくりが重要であり、ライフステージに応じた切れ目のない健康づくりを支援していく必要があります。
- ・自然災害から市民の生命を守るため、地域においても防災力を強化する必要があります。

<成果指標> (セル色塗りは目標数値を達成)

基本目標	基本施策	成果指標					単位
		指標	H26年度 現状	R元年度 実績(参考)	R2年度 実績	R2年度 目標	
共に思いやり支え合う安全で安心なまち	高齢者の安全安心の確保と社会参加の促進	要介護認定率	19.2	19.1	18.8	22.5以下	%
		サロンの参加人数	18,700	18,064	9,892	22,000	人
		雇用が促進された高齢者の数	6	28	28	30	人
	障害のある人への支援	障害者相談支援センター相談件数	3,153	3,750	2,988	3,300	件
		障害者が一般就労した件数	23	38	45	35	件
		児童デイサービスセンター利用件数	723	1,160	1,017	750	件
	子どもと子育て家庭への支援	地域子育て支援センターの利用者数	421	464	383	430	人
		婚活セミナー参加者数 ※H30で事業終了	187	0	0	250	人
	保健予防と地域医療の推進	特定健康診査の実施率	39.5	44.1	33.6 見込値	60.0	%
		特定保健指導実施率	22.0	29.8	15.9 見込値	60.0	%
		かかりつけ医の浸透率	74.5	77.7	78.7	83.0	%
	共に支え合う地域福祉の推進	自立相談支援センター相談件数	—	24	60	60	件
		ボランティア派遣者数	98	311	34	120	人
	災害に強いまちづくりの推進	自主防災組織の結成率	93.0	96.6	97.1	100	%
		普通救命講習の受講率	16.0	36.8	38.4	26.0	%
	防災・消防基盤の整備	里山砂防事業の実施箇所	1	1	2	2	箇所
		住宅の耐震化率	69	71	72.6	79	%
		消防水利の充足率	54.5	58.4	59.0	65.0	%
		被災者用トイレ環境の整備	0	市40 県17	市40 県17	50	基
		被災者の安心感の向上	1	1	1	1	回/年
周囲に影響のある管理不全な空き家等の戸数		96	79	72	90	戸	
犯罪、事故、消費者被害がないまちづくりの推進	刑法犯認知件数	120 (26年)	77	104	100以下	件	
	消費者相談センター相談件数	215	200	206	260	件	

産業が元気

③「基本目標 誰もが快適で暮らしやすいまち」

<主な取り組み>

【中部縦貫自動車道の整備促進】

- 中部縦貫自動車道永平寺大野道路が全線開通するとともに、国・県と協働して用地取得などに取り組み、大野油坂道路の全ての用地取得が完了し工事が着実に進展しました。また、大野油坂道路の早期開通に向けた関係機関への要望活動などの取り組みにより、「大野 IC から和泉 IC (仮称)」区間が令和4年度に開通する見通しとなりました。

【「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核となる施設の整備】

- 道の駅「越前おおの 荒島の郷」の整備を行い、工事が完了しました。また、道の駅の商品ラインナップ

を充実させるため、「大野市道の駅産直の会」会員への研修会や商品開発を支援しました。

【国道476号や主要地方道などの整備促進】

- ・国道476号西部アクセス道路の犬山交差点から亀山西までの区間について、供用開始に向けて県への要望活動に取り組むとともに用地交渉に協力し、整備が完了しました。

【自転車走行空間の整備】

- ・自転車を活用したまちづくり事業により、真名川サイクリングコース全線の整備や国体ロードレースコースに表示ラインを整備するなど、安全で快適な自転車走行空間の整備を行いました。

【水道の整備】

- ・水道事業及び簡易水道事業において、施設規模の適正化や施設の耐震化、水質保全などを図るため、中長期の取組方針を示した大野市営水道事業基本計画を策定しました。

【下水道の整備】

- ・公共用水域の水質保全及び生活環境改善を目的とし、公共下水道及び農業集落排水事業の計画的な整備や施設の機能維持、合併処理浄化槽の普及に取り組みました。

【バス運行の充実】

- ・道の駅「越前おおの 荒島の郷」の開駅に合わせ、越前大野駅と道の駅「越前おおの 荒島の郷」を結ぶ市営バス道の駅線を新設し、市営バス和泉線、乗合タクシー蕨生・友兼線において、道の駅「越前おおの 荒島の郷」停留所を追加しました。

【JR 越美北線の利用促進】

- ・乗車券の購入助成や沿線のイベントで使える買い物券の配布、新しいデザインのラッピング車両を活用したイベントの開催などにより、JR越美北線の利用促進に取り組みました。令和2年度には、「越美北線と乗合バスに乗る運動を進める会」と連携し、越美北線開業60周年を祝して写真展を開催しました。



中部縦貫自動車道の整備促進



道の駅「越前おおの 荒島の郷」の整備



JR越美北線の利用促進

第六次総合計画に向けた主な課題

- ・中部縦貫自動車道の早期県内全線開通に向けて、整備の促進と関係機関における予算の確保が必要です。
- ・国道158号境寺・計石バイパスは、通勤や物流、防災、救急救命などのための重要な道路であることから、事業用地の速やかな取得と着実な整備の促進が重要であり、事業化が決定した一般県道皿谷大野線についても、早期の完成が求められています。
- ・公共交通機関の利用者が減少し続ける中、運行経費は増大しており、将来にわたって持続可能な公共交通とする必要があります。
- ・上水道や簡易水道は、人口減少や施設の老朽化などに対応した、効率的で持続可能な維持管理や施設の更新、料金の改定、加入の促進などによる安定した経営基盤をつくる必要があります。

<成果指標> (セル色塗りは目標数値を達成)

基本目標	基本施策	成果指標					
		指標	H26 年度 現状	R 元年度 実績(参考)	R2 年度 実績	R2 年度 目標	単位
誰もが快適で暮らしやすいまち	中部縦貫自動車道の整備促進	中部縦貫自動車道大野油坂道路の全線開通	大野東～和泉間の工事着手	大野～大野東間の用地取得(100%)、真名川橋の下部工事着手、下山トンネルの貫通、九頭竜川橋上部が接合	清滝川橋、堂本橋、七板橋の橋台工事完了。荒島第一トンネルの貫通。上半原トンネルの掘削開始。	大野～油坂間の一部供用開始	
		「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」における核となる施設の整備	重点「道の駅」に選定	名称決定、土木・建築工事の施工	土木・建築工事完了	供用開始	
	幹線道路網の整備	国道158号境寺・計石間の供用開始	工事未着工	詳細設計、用地取得(一部)、道路改良工事	詳細設計、用地取得、道路改良工事	供用開始	
		西部アクセス道路の供用開始	事業化	供用開始済	供用開始済	供用開始	
		都市計画道路中保中野大橋線の整備	未着手	事業化	事業化	事業化	
	人にやさしい道路環境の創出	市道の改良率	82.5	83.1	83.3	83	%
		橋梁補修数	9	15	18	15	橋
		歩道のバリアフリー率	40.7	42.4	42.4	41.9	%
	快適な生活関連の基盤整備	上水道の有収率	68.9	70.0	68.6	75.0	%
		公共下水道整備率	54.5	74.6	77.5	78.1	%
		合併処理浄化槽設置数	1,595	1,668	1,673	1,778	基
	快適な住宅の整備	高齢者等賃貸住宅家賃補助件数	48	31	29	64	件
	高度情報化の推進	観光Wi-Fiステーションの設置箇所数	0	14	17	15	箇所
	公共交通手段の確保	大野市内バス乗客数	35,425	24,674	20,141	36,000	人
		広域路線バス乗客数	284,451	205,329	165,995	285,000	人
		越美北線の乗客数	336,378	336,307	243,773	347,000	人
	雪に強いまちづくり	流雪溝の整備	87,403	87,890	88,103	88,000	m
降雪期前の雪下ろし作業登録者数		123	83	154	200	人	

産業が元気

④「基本目標 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち」

<主な取り組み>

【越前おおのブランドの発信】

- ・「天空の城 越前大野城」や「日本一きれいな星空」などの地域資源を「越前おおのブランド」として、各種メディアを通じて発信しました。

【農業と農山村の活性化対策】【農産物の総ブランド化の推進】

- ・集落の園芸作物の生産及び販売を支援し、園芸振興と集落の活性化に取り組むとともに、特産作物の生産に必要な機械整備の支援と特産作物の出荷奨励など、ブランド力強化につながる基盤を整備しました。

【魅力ある商店街の形成と商業の活性化】

- ・「popolo. 5（ポポロドットファイブ）」など、民間事業者が行う施設整備を支援するなど魅力ある市街地の整備及び商業エリアの形成に取り組みました。

【観光資源の活用と滞在型観光の推進】

- ・日本一のきれいな星空を活かして「星空ハンモック」や「星降るランタンナイト」などのイベントを開催し、六呂師高原のPRと集客に取り組みました。令和2年10月には、令和5年度に星空の世界遺産と言われる国際ダークスカイ協会が実施する「星空保護区認定」を目指すことを宣言しました。
- ・越前大野城で築城440年記念御城印を発行したり、武家屋敷旧田村家に風車棚、武家屋敷旧内山家に夏障子、御清水にカラフルな提灯を設置したりするなど、SNSを意識した観光施設の魅力付けの仕掛けをつくり、まちなかへの誘客推進に取り組みました。

【定住情報の提供とサポート体制の強化】

- ・移住定住サイト「オオノグラシ」を通じて移住支援の情報発信や、移住体験プログラムの実施などにより、移住者の積極的な受け入れに取り組みました。
- ・結の故郷はたらく若者応援事業を実施し、大野市に定住し働いている若者を支援しました。

【積極的な企業誘致】

- ・企業誘致を進め、雇用の創出を図るため、大野市富田産業団地（約12ヘクタール）の整備が完了し、令和3年4月に全区画分譲を開始しました。

【生き生きと働く職場環境の整備促進】

- ・働く人にやさしい企業応援事業や育児休業等取得促進事業を実施し、働きやすく、子育てと仕事を両立できる職場環境づくりを支援しました。



六呂師高原での「星空ハンモック」



移住体験プログラムの提供



整備した大野市富田産業団地

第六次総合計画に向けた主な課題

- ・担い手や後継者不足による農地の荒廃や不耕作地の増加を防ぐため、スマート農業 などによる省力化と、集落を超えた広域化や協業化を推進する必要があります。
- ・創業や企業誘致により市内における事業所数の増加を図るとともに、市内事業所が有する技術を生かし、時代に即した新たな産業分野への進出を促進する必要があります。
- ・市内の観光は日帰りが中心で、観光消費額が低いことから、大野ならではの体験プログラムや土産品の開発など、観光消費額を増加させる仕掛けづくりが必要です。
- ・地方回帰の関心が高まっているものの大野市にはまだ十分に波及しておらず、大都市圏在住者に大野市に関心を持ってもらうための情報発信が必要です。
- ・定住促進に向け、優良な空き家の効果的な利活用を促す必要があります。

<成果指標> (セル色塗りは目標数値を達成)

基本目標	基本施策	成果指標					単位
		指標	H26年度 現状	R元年度 実績(参考)	R2年度 実績	R2年度 目標	
越前おおのの魅力あふれる活力あるまち	越前おおのブランド戦略の推進	ブランド発信にかかわる人数	569	735	752	750	人
		里の恵み認証登録者数	31	35	39	60	人
		産地保証登録者数	105	129	129	150	人
	越前おおの型農業の推進	活性化に取り組む集落数	18	22	22	30	団体
		新規就農者数	21	28	28	30	人
		特産作物の生産拡大	9	58	65	45	件
		特産作物の生産促進	里芋 111 ナス 3.9 ネギ 35 キク 14	里芋 83.5 ナス 2.4 ネギ 24.5 キク 11.1	里芋 78.7 ナス 2.4 ネギ 22.8 キク 10.5	里芋 130 ナス 13 ネギ 40 キク 16	ha
		環境調和型農業の実践	JAS 7 県特裁 64	JAS 4 県特裁 65	JAS 4 県特裁 74	JAS 10 県特裁 80	人 経営体
		耕作放棄地の再生	1.3	2.8	4.6	2.2	ha
		農道舗装整備率	87.6	90	90	90.0	%
		有害鳥獣被害の防止(防護柵の延長)	163,000	177,589	184,609	181,000	m
	森林整備の推進と持続可能な林業の振興	間伐材搬出材積	12,793	30,568	34,203	28,000	m ³
		林業作業士育成数	33	30	31	46	人
		林道舗装率	45.82	50.4	51.1	48.34	%
		まいたけ生産	92	140.65	115.19	150	t
	中心市街地の活性化	市街地の観光入り込み客数	65.9 (過去5年の平均)	82.9	38.5	88	万人
		歩行者通行量	4,233	3,079	4,279	5,000	人
	戦略的な観光の推進	観光入り込み客数	193 (H26 暦年)	199 (R1 暦年)	112 (R2 暦年)	220	万人
	地域間交流の推進	交流を行う自治体数	13	15	15	15	自治体
	定住の促進	定住受け入れ件数(累積)	34	98	111	64	件
		定住のための住宅取得等助成件数(累積)	201	374	385	350	件
		空き家情報バンク制度成約件数(累積)	9	33	38	20	件
	雇用の確保と働く環境の整備	創業者数(累積)	2	23	24	10	人
		女性起業家・経営者の数(累積)	1	8	9	5	人
		育児休業取組事業所数(累積)	4	11	11	25	事業所

自然が元気

⑤「基本目標 美しく豊かな自然環境を育み継承するまち」

<主な取り組み>

【地下水保全活動の啓発と支援】

- ・「水への恩返し Carrying Water Project」により、市民の水に対する感謝の気持ちや地下水保全意識の向上につなげるとともに、市民や企業からの寄付金で東ティモール民主共和国に給水施設全6基を建設

しました。

- ・水環境に対する市民の自信と誇りの醸成を図るため、水に関する学習や研究の拠点施設として「越前おおの水のがっこう」を整備しました。

【農山村の自然環境の保全】

- ・越前おおのエコフィールド（どんぐりグリーン広場）で、どんぐり等の苗木の育成や植林などの森づくり活動に取り組み、市民参加型の環境保全活動を行いました。
- ・環境を考え行動する人づくりを進めるため、川、里地里山、循環型社会、低炭素型社会の各テーマについて、児童が体験しながら学ぶ「越前おおの環境塾」を開催しました。

【化石の保全と活用】

- ・「化石発掘体験センターHOROSSA！」を整備し、和泉地区の化石を活用した地域活性化及び観光誘客に取り組みました。

【田園・山村景観の保全と活用】

- ・景観形成市民団体への支援や、ふるさと水と土とふれあい事業、華のジュータン形成事業などにより、田園や山間景観の保全に取り組みました。

【低炭素社会づくりの推進】

- ・地球温暖化対策を促進するために、関係機関と連携し、県民運動「LOVE・アース・ふくい」を拡大する取り組みを行いました。また、脱炭素社会の実現に向けて、令和3年3月に、2050年までに市内の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」に挑戦することを宣言しました。

【循環型社会づくりの推進】

- ・廃棄物の減量化と資源化を促進するため、ごみ分別などに関する出前講座の開催や、地域・市民団体らが行う資源回収に対する補助等を行いました。また、不法投棄の早期発見と再発防止のため、各地区の環境監視員による巡視活動や県との合同パトロールなどを行いました。



越前おおの水のがっこう



越前おおの環境塾



化石発掘体験センター「HOROSSA！」

第六次総合計画に向けた主な課題

- ・水循環の重要性についての理解と関心を深め認知度を向上させるため、幅広い世代を対象とした学習機会の創出や行事の開催などが必要です。
- ・草刈りや清掃活動への若い世代の参加意識を高めるとともに、日常の中で取り組める環境美化活動について啓発する必要があります。
- ・国内外から注目されている大野市の地質や化石をさらに多くの方に知ってもらうため、関係機関や関係団体と協力した調査研究と保護に向けた取り組みが必要です。
- ・国の脱炭素社会の実現に向けた取り組みと合わせ、大野市においても2050年の脱炭素社会の実現を視野に入れた取り組みを推進する必要があります。

<成果指標> (セル色塗りは目標数値を達成)

基本目標	基本施策	成果指標					単位
		指標	H26年度 現状	R元年度 実績(参考)	R2年度 実績	R2年度 目標	
美しく豊かな自然環境を育み継承するまち	地下水の保全と湧水文化の再生	11月の平均地下水位 御清水観測井	1.02	1.44	1.17	1.20 未満	m
		春日公園観測井	5.08	6.46	5.82	5.50 未満	
		菖蒲池(浅井戸)観測井	6.49	7.62	7.20	7.00 未満	
	豊かな自然環境の保全と創出	地域で設置された自然環境に配慮した施設の設置数(累積)	11	12	12	17	力所
		森づくりイベントへの参加者数	436	652	102	520	人
		化石発掘体験者数	2,984	8,280	5,031	5,000	人
		和泉郷土資料館での企画展の開催	0	1	1	1	回
	快適な生活環境の保全	水質基準を達成した河川の数	11	11	11	11	河川
		水洗化率	51.0	56.3	57.4	65.4	%
		違法な野外焼却に係る苦情件数	7	5	23	0	件/年
	良好なふるさと景観の形成	芝桜などの植栽面積(累積)	330,000	455,694	527,737	500,000	m ²
	次代につなぐ持続可能な社会の形成	1人1日当たりのごみの排出量	875	950	952	850 以内	g/人・日
		ごみの資源化率	24.5	21.9	20.1	26.0	%
堆肥の購入量		2,846.6	2,748	2,932.1	4,100	m ³	

行財政改革

⑥「基本目標 基本構想実現に向けた行政運営」

<主な取り組み>

【推進体制の確立】

- ・議会や産、学、官、金融機関、労働団体、メディアなど幅広い分野から構成する大野市人口減少対策会議を設置し、大野市総合戦略に基づく施策の指標検証及び改善提案に取り組みました。

【総合戦略に基づく事業の推進】

- ・地方創生・人口減少対策として、「水への恩返し Carrying Water Project」や、地元店舗の取材とポスター作りを通して高校生や大学生などの地元への愛着を促す「大野へかえろう事業」などに取り組みました。

【大野市外に向けた魅力ある情報の発信】

- ・広報紙やホームページのほか、フェイスブック、ラインなどのSNSを活用した情報発信に取り組みました。
- ・ふるさと納税制度の活用により、寄附額の増加と大野市の特産品等のPRに取り組みました。

【市民と行政の情報の共有化】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、手続きのオンライン化の重要性が高まるなか、市民手続きの利便性を高めるため、福井県電子申請サービスを中心に申請手続きのオンライン化や書類への押印

の義務付けの廃止（一部を除く）に取り組みました。

【継続的な行政改革の推進】

- ・公共施設とインフラ資産の適正配置をふまえた維持管理や中長期的な財政負担の軽減と平準化を図るため、「大野市公共施設等総合管理計画」を策定するとともに、施設類型ごとの「個別施設計画」を策定しました。



人口減少対策会議の開催



水への恩返し Carrying Water Project



大野へかえろう事業

第六次総合計画に向けた主な課題

- ・市民の視点で市民が必要とする新鮮で魅力ある情報や市民生活に役立つ情報を迅速に発信するとともに、情報を一方的に発信するのではなく、市民の意見を市政に反映する必要があります。
- ・ブランド発信に関わる「関係人口」を増やすため、従来のゆいびと やブランド大使だけでなく、市外や県外の大学生、企業など新たなファン層を創出するとともに、大野市への思いを高めてもらう必要があります。
- ・庁内に導入された各種の事務システムについて、市民手続きの利便性向上や経費の縮減、業務の改善といった効果を上げる必要があります。
- ・公共施設やインフラ資産の老朽化に伴う不具合の増加や事故発生リスクに対し、適切な対応が必要であるとともに、公共施設などの在り方を検討していく必要があります。
- ・人口減少や新型コロナウイルス感染症による影響で税収の減少が見込まれる中、健全な行財政基盤を維持し、市民が安心して住み続けられる行政経営を行っていくために、財源の確保と経費の縮減が必要です。

<成果指標>（セル色塗りは目標数値を達成）

基本目標	基本施策	成果指標					単位
		指標	H26年度 現状	R元年度 実績(参考)	R2年度 実績	R2年度 目標	
基本構想実現に向けた行政運営	市民総参加・協働型の市政の推進	パブリックコメント案件1件当たりの意見数	2.8 (1件当たりの平均)	9	11	8	件
	情報化社会に対応した市政の推進	オープンデータ数	3	8	9	15	件
		施設予約システムでの利用可能施設数	4	4	2	10	施設
		電子申請システムでの利用可能手続数	18	33	64	40	件
		市ホームページアクセス件数	305,916	899,674	1,065,804	370,000	件

(3) 成果指標の達成状況

令和2年度に目標を達成した成果指標の数 38 (36)

()内は前年度達成数

基本目標ごとの基本施策数・成果指標数・令和2年度の目標達成数

基本目標	基本施策数	成果指標数	目標達成 成果指標数
優しく賢くたくましい大野人が育つまち	5	11	2 (3)
共に思いやり支え合う安全で安心なまち	8	23	9 (11)
誰もが快適で暮らしやすいまち	8	18	7 (5)
越前おおのの魅力あふれる活力あるまち	8	25	13 (11)
美しく豊かな自然環境を育み継承するまち	5	12	4 (4)
基本構想実現に向けた行政運営	4	5	3 (2)
合計	38	94	38 (36)

第五次大野市総合計画
における取組報告

令和3年7月
大野市 行政経営部 政策推進課